

「釧路湿原自然再生協議会」

第 17 回 旧川復元小委員会

資 料

平成 27 年 1 月 27 日

釧路湿原自然再生協議会運営事務局

釧路湿原自然再生協議会

－ 第 17 回 旧川復元小委員会 －

日時：平成 27 年 1 月 27 日（火） 13：30～15：30

場所：釧路地方合同庁舎 5 階 共用第 1 会議室

議 事 次 第

1. 開 会
2. 議 事
 - 1) 平成 26 年度茅沼地区旧川復元モニタリング調査結果について
 - 2) ヌマオロ川における調査検討結果について
3. その他
4. 閉 会

配 付 資 料

- ・ 議事次第
- ・ 旧川復元小委員会 委員名簿
- ・ 第 17 回 旧川復元小委員会 出席者名簿
- ・ 第 17 回 旧川復元小委員会資料
- ・ 第 16 回 旧川復元小委員会ニュースレター

釧路湿原自然再生協議会
旧川復元小委員会 委員名簿

計：45名

■個人(17名)

(敬称略、五十音順)

No	氏名	所属
※ 1	石岡 透	
2	亀山 哲	国立環境研究所 生物・生態系環境研究センター 生態系機能評価研究室 主任研究員
3	神田 房行	北方環境研究所所長 (元北海道教育大学副学長)
4	櫻井 一隆	
5	清水 康行	北海道大学大学院 工学研究院 環境フィールド工学部門 水工・水文学研究室 教授
6	新庄 興	
※ 7	新庄 久志	釧路国際ウェットランドセンター技術委員長 (環境ファシリテーター)
8	杉山 伸一	環境カウンセラー(市民部門)
9	杉澤 拓男	
10	竹中 康進	環境省羽幌自然保護官事務所自然保護官
11	中村 太士	北海道大学大学院 農学研究院 教授
12	野本 和宏	釧路市立博物館
13	早川 博	北見工業大学 社会環境工学科 教授
14	針生 勤	一般財団法人釧路市民文化振興財団 生涯学習推進アドバイザー
15	日野 貴	
16	松本 文雄	
17	矢吹 哲夫	酪農学園大学 環境システム学部生命環境学科 教授

■団体(20名)

(敬称略、五十音順)

No	団体/機関名	代表者名
1	釧路川カヌーネットワーク	会長 小川 清史
2	釧路国際ウェットランドセンター	理事長 蝦名 大也
3	釧路市漁業協同組合	代表理事組合長 戸田 晃
4	釧路自然保護協会	会長 神田 房行
5	釧路湿原国立公園 ボランティアレンジャーの会	代表幹事 山岸 彬
6	釧路湿原国立公園連絡協議会	理事長 蝦名 大也
7	釧路シャケの会	会長 小杉 和寛
8	釧路水産用水汚濁防止対策協議会	会長 柳谷 法司
9	公益財団法人 日本生態系協会	会長 池谷 奉文
10	公益財団法人 北海道環境財団	理事長 小林 三樹
11	さっぽろ自然調査館	代表 渡辺 修
12	塘路ネイチャーセンター	センター長 鷺見 祐将
※ 13	特定非営利活動法人 環境把握推進ネットワーク-PEG	代表 照井 滋晴
14	特定非営利活動法人 タンチョウ保護研究グループ	理事長 百瀬 邦和
15	特定非営利活動法人 鶴居タンチョウ元亀村	理事 佐藤 吉人
16	特定非営利活動法人 トラストサルン釧路	理事長 黒澤 信道
※ 17	独立行政法人土木研究所寒地土木研究所 寒地河川チーム	上席研究員 船木 淳悟
※ 18	独立行政法人土木研究所寒地土木研究所 水環境保全チーム	上席研究員 平井 康幸
19	北海道プロフェッショナル フィッシングガイド協会	会長 テディ 齋藤
20	標茶西地区農地・水保全隊	隊長 佐久間 三男

■オブザーバー(3団体)

(敬称略)

No1	団体/機関名	代表者名
1	社団法人 十勝釧路管内 さけます増殖事業協会	会長 亀田 元教
2	標茶町農業協同組合	代表理事組合長 高取 剛
3	釧路丹頂農業協同組合	代表理事組合長 武藤 清隆

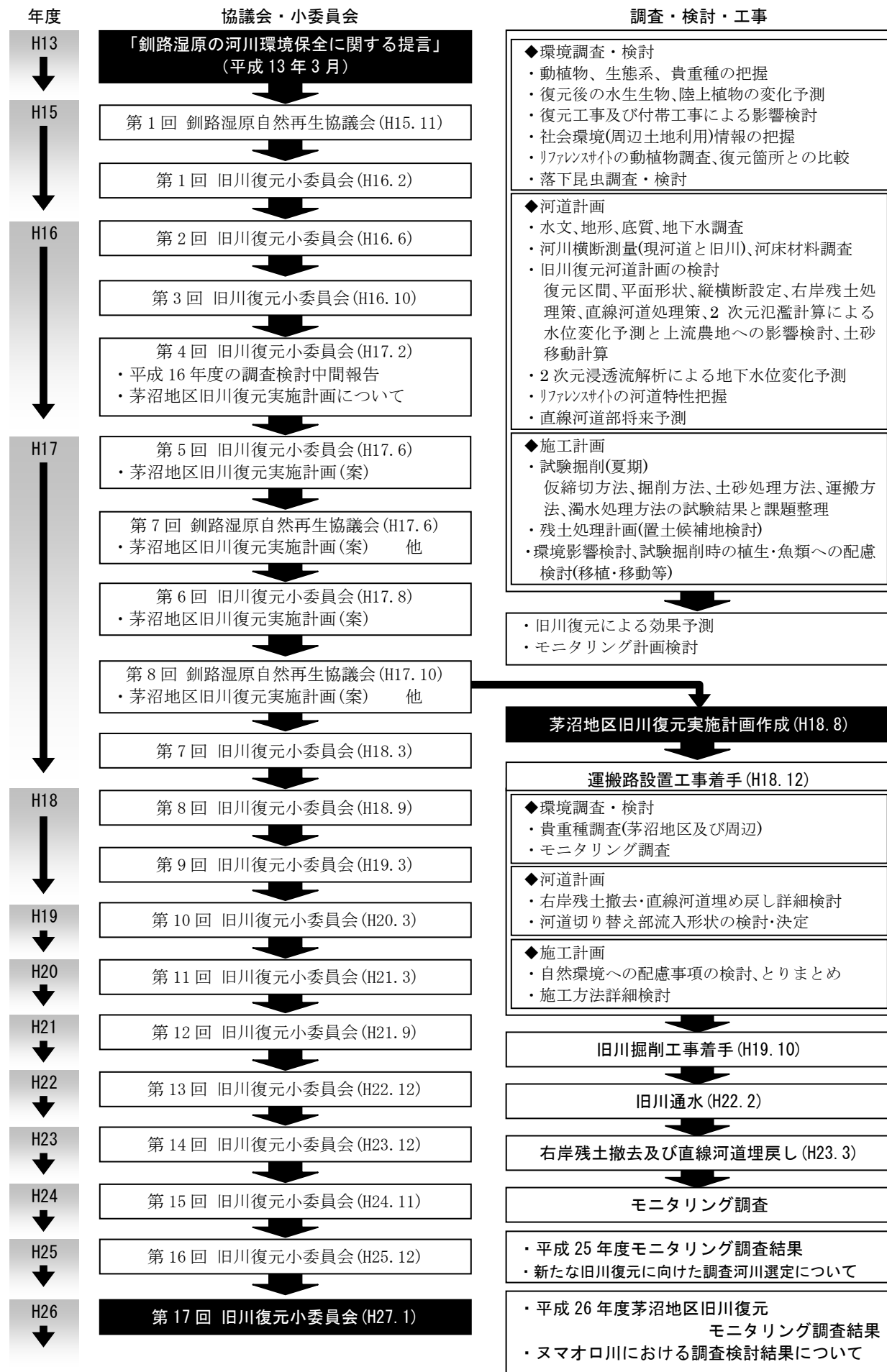
■関係行政機関(5機関)

(敬称略)

No1	団体/機関名	代表者名
1	国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部	部長 敷土 勉
2	環境省 釧路自然環境事務所	所長 西山 理行
3	釧路市	市長 蝦名 大也
4	標茶町	町長 池田 裕二
5	鶴居村	村長 大石 正行

※第7期(前期:H26.11~H27.11)新規登録

- 旧川復元計画に関するこれまでの経緯と今後の計画 -



◇前回の旧川復元小委員会での課題と今後の対応方針

表 第16回 旧川復元小委員会の課題（発言概要）と今後の対応方針

項目	発言概要	回答および今後の対応方針
平成25年度モニタリング調査結果について	元々の蛇行河川においても氾濫による自然堤防が形成され、そこにハンノキが入ってくるのが想定されるが、地下水位や冠水頻度との関係から乾燥化しない場合も考えられるため、今後、モニタリング調査を実施していく必要がある。	今後も継続的にモニタリング調査を実施する。
次の旧川復元に向けた調査河川について	選定した河川（ヌマオロ川）の魚類の生息の環境の評価指標に「蛇行の多様性」を取り入れてみてはどうか。	検討の参考にする。
	対象河川の周辺に農地があり、詳細な調査や検討を行った上で、農地への影響について再度議論をしたい。	今後、詳細な調査、検討を行い小委員会、協議会で議論していく。